

豊かなスポーツライフを

現在、女子生徒が体育の授業でティーボールに取り組んでいます。昨日は一年女子のその授業を少し見せてもらいました。二、三年の女子はこれまでも取り組んでいますので、要領を得ている部分が多いことでしょう。しかし、初めてベースボール型の球技に取り組む一年生となると、そうはいきません。一生懸命取り組む姿が実に初しく、見ている私も思わず笑みがこぼれてしまいました。

「クラブを使う時も、『これどっちの手につけるのですか』と尋ねる生徒もいるんです!」

本年度から体育教師になったS教諭が、うれしそうに教えてくれました。野球経験者の彼女にとっては新鮮な驚きだったようです。「(クラブを)使ったことがない生徒も当然いるからね。丁寧に指導してやって。そういう生徒たちが、最後には『楽しかった』『面白かった』って言えるといいね。」

私はこう答えました。実際の授業では、S教諭は丁寧に指導していました。右手と左手を離してバットを握っている生徒に優しく語りかけ、バットの振り方を指導していました。ボールを打った後、一塁ベース前で走るのをやめてしまった生徒には、大きな声で走り抜けるように教えていました。少しずつゲームらしくなっていく光景を見た私は、経験することの大切さをしみじみと感じました。

全ての教科について言えることですが、私たち教師は文部科学省が定めた学習指導要領というものに基づいて授業をしています。体育という教科の目標も、ティーボールに取り組むねらいも、それに詳しく書かれています。

その指導要領という本の中に何回も出てくる言葉に、「豊かなスポーツライフ」というものがあります。この言葉が、これからの皆さんの将来を豊かにすることにつながります。

野球やソフトボールを将来やらなくてもよいのです。ボールを捕ったり投げたりすること、バットでボールを打つこと、守りと攻めのはっきりしたスポーツの面白さがわかること、こういう経験が皆さんの人生をおもしろくします。

東京オリンピックピックの女子ソフトボールの試合では、選手たちがいとも簡単にボールを投げて打って捕って、ということをやっているように見えましたね。投げる打つ捕るを経験したことがある人からすると、選手たちのプレーがどれほどすごいものかが実感できるところです。やったことがない人には、それがわかるようにでわからないものです。それが「豊かなスポーツライフ」の一つです。

勉強には、少なからずそういうところがあります。いやでも苦手でもやってみる挑戦してみるということが大切なのです。

